



新居浜ふるさと映画 協賛企画書

ver.02

市制80周年を記念した映画事業へのご協賛を募集します

新居浜市市制施行80周年のテーマ「つむぐつなぐ 未来へ 人へ」を元に新居浜映画を企画しました。つきましては、製作資金をサポートする協賛金を広く募集しております。是非この映画製作にご賛同くださいますようお願い申し上げます。

大森研一監督・福田卓郎脚本の オール新居浜ロケ映画

監督は若手実力派の大森研一（愛媛県出身）氏。新居浜西高卒の福田卓郎氏のオリジナル脚本を元に、オール新居浜ロケにて、温かい人々・風景・文化を通じて若者たちが躍動する物語が全国で上映され、新居浜の今が映画の中に永遠に残ります。



大森研一監督プロフィール

1975年愛媛県生まれ。大阪芸術大学卒。幅広い分野で映像業務を行いつつ自主映画制作を続ける。愛媛県・砥部焼観光大使、伊達なうわじま観光大使、香川大学大学院非常勤講師。映画制作会社ウサギマル代表。【全国劇場公開映画】「海すずめ」2016年公開「ポプラの秋」2015年公開「瀬戸内海賊物語」2014年公開「恐怖新聞」2011年公開「ライトノベルの楽しい書き方」2010年公開



福田卓郎氏プロフィール

愛媛県四国中央市出身。新居浜西高校卒。日本大学芸術学部在学中より映画活動及び演劇活動を開始。脚本演出を手がける。1991年、映画「就職戦線異状なし」でシナリオライターとして実質的デビュー。日本大学芸術学部映画学科非常勤講師【主な作品】映画「就職戦線異状なし」「トイレの花子さん」「機関車先生(アニメ)」「僕らのワンダフルデイズ」「愛を積みむひと」他テレビ「トリック2」「警部補矢部謙三」「富豪刑事」「こちら本池上署」「ウルトラマンマックス」「ULTRASEVEN X」「その男、副署長」「水戸黄門」「おしりかじり虫」「仮面ライダーゴースト」他多数

あらすじ

太鼓祭りが近づく中、旧別子銅山の不思議な坑道を巡って2つの世界を行き来する主人公海斗。現実と異次元での体験と、家族、恋人、地域の人たちに支えられ成長する青年を描いたファンタジーと感動の物語。

協賛・特典内容

協賛金について(税込) (1)300,000円【特典A】 (2)1,000,000円【特典B】
(3)3,000,000円【特典B,C】 (4)5,000,000円【特典B,C,D】 (5)10,000,000円【特典B,C,D,E】

特典	特典内容	対象申込コース
A	・エンドロール掲載(口数により文字サイズが異なり、製作者指定書体) ・先行イベント券2枚※ ・映画鑑賞券5枚 ・記念グッズ3個	(1)のみ
B	・エンドロール掲載(口数により文字サイズが異なり、製作者指定書体) ・先行イベント券10枚※ ・映画鑑賞券10枚 ・記念グッズ5個	(2)(3) (4)(5)共通
C	・企業ロゴにてエンドロール掲載 ・本編中にて企業商品もしくは社名入り看板等の露出(内容相談)	(3)(4) (5)共通
D	・企業プロモーション、CFに映画内映像(予告編内)使用可能	(4)(5)共通
E	・パンフレット広告掲載(1頁)	(5)のみ

お申し込み・お問い合わせ

※特典内容注 『先行イベント』とは、予定内容:予告編上映・出演者トークなど
※本映画への協賛金は「広告宣伝費」扱いとなります。

募集期間:2017年7月1日~2017年9月30日まで(第2次締切)

お申し込み・お問い合わせ先:

新居浜ふるさと映画実行委員会(あかがねミュージアム内) 愛媛県新居浜市坂井町2丁目8番1号

TEL:0897-31-0305 FAX:0897-31-0306 (担当:皆尾)Email:h.minao@hearts.ne.jp

(7) 総合 2017年(平成29年)2月22日 水曜日

「広大な世界観取り入れる」 新居浜舞台の映画 大森監督が意欲



新居浜が舞台の映画撮影に向け、スケジュールなどを説明する大森研一監督(左から2番目)＝21日午後、新居浜市坂井町2丁目

支援の実行委発足、初会合

大森研一監督(低部町出身)がメガホンを取る新居浜が舞台の映画製作を支援する実行委員会が21日、発足した。観光や物産の団体関係者ら約10人が委員となり、新居浜市坂井町2丁目のあかがねミュージアムで初会合を開いた。

映画製作は2017年度の市制80周年記念事業の一つで、今年秋ごろから市内ロケに入る予定。18年3月末までの上映開始を目指している。

会合には大森監督も参加し、脚本を新居浜西高校卒業生でテレビドラマ「トリック2」などを手掛けた脚本家福田卓郎さん(四国中央市出身)に依頼している。

(末光徹)

新居浜舞台の映画 10～11月に市内ロケ



新居浜を舞台とする映画の撮影スケジュールを説明する大森研一監督
13日午後、新居浜市坂井町2丁目

新居浜が舞台の映画製作を地元で支援する実行委員会(委員長・曾我部謙一、新居浜商工会議所会頭)の会合が13日、新居浜市坂井町2丁目のあかがねミュージアムであり、メガホンを取る大森研一監督(低部町出身)が「愛媛国体終了後の10月から11月ごろに市内ロケに入りたい」と、撮影に向けた意欲を語った。

大森監督は、新居浜西高校卒業生の脚本家福田卓郎さん(四国中央市出身)による脚本づくりに大詰めを迎えたと明かした。監督は「あらすじの大枠はできている。6月20日をめどに台本を出したい」とし、7月から主要な出演者を固めていくとの見通しを示した。

(高橋宏幸)

大森研一監督



(9面参照)

主演や具体的な脚本は未定

(末光徹)

県内が舞台の長編映画「海すずめ」(2016年)や「瀬戸内海賊物語」(14年)の製作で知られる大森研一監督(41)＝低部町出身＝が、新居浜市の観光や名所などを盛り込んだ新作を手掛けることが分かった。市が13日に発表した17年度当初予算案で明らかにした。

大森監督によると、「瀬戸内海賊物語」で新居浜市沖のや太鼓祭りといった地域特有の魅力を市民の心意気を含め新居浜大鼓祭りの視察経験などを紹介したい。地元を愛しているから、同市を深く感じてもらう、未来のある明るい、舞台に選んだ。

市制80年事業 別子銅山や太鼓台紹介

新居浜舞台の映画撮影へ

市は映画を17年度に展開する市制80周年記念事業の目玉の一つと位置付けており、17年度当初予算案に事業費2400万円を計上した。